

審美領域への即時埋入



Immediate implant placement and provisionalization—two case reports.

インプラントの即時埋入および即時暫間補綴 — 2 症例の報告

SJ Froum, SC Cho, H Francisco, YS Park, N Elian, D Tarnow.  
Pract Proced Aesthet Dent 2007;19(10):421-428.



図 1：右側側切歯欠損に対する右犬歯から右中切歯の固定性義歯の術前画像



図 2A：インプラント埋入直後の X 線写真



図 3：インプラント埋入 2 年半後の術後写真。頬側歯肉辺縁は審美的に維持されていることがわかる。



図 2B：インプラント荷重 2 年半後の術後写真。隣接面間の骨レベルが維持されている。

要約

従来、歯科の骨内インプラントは抜歯後 6 ～ 12 ヶ月の治癒期間をおき、2 回法の外科術式で埋入されてきた。治癒期間を短縮するために、抜歯後即時埋入および即時暫間補綴などのプロトコルが紹介された。このプロトコルで埋入されたインプラント残存率は高いが、審美領域における歯肉退縮および骨吸収が潜在する障害である。報告する 2 症例では、前歯部審美を保存する外科的テクニックを紹介する。それは、低侵襲の抜歯、インプラント即時埋入、暫間補綴、およびレーザーによるマイクログループを歯冠部に付したデザインのインプラントを用いたプロトコルである。

考察

レーザーマイクログループが歯冠部に付与されたインプラントでは、組織付着の誘導や、カラー部が機械研磨されたインプラントでよくみられる上皮陥入を抑制し、頬側骨縁上の軟組織保存の一因となった可能性がある。この骨縁上軟組織の保存には、骨縁上インプラント表面への軟組織付着の確立が大きく関与する。